

審議会等会議録

審議会等の名称	第2回多世代交流・健康増進拠点施設整備専門会議
開催日時	令和3年5月22日(土曜日)10:00~12:00
開催場所	防長苑 2階 孔雀の間
公開・部分公開の区分	公開
出席者	山口県立大学社会福祉学部社会福祉学科 准教授 廣田智子 山口商工会議所 専務理事 大田正之 大正大学社会共生学部公共政策学科 教授 村橋克則 (リモート出席) 一般財団法人山口観光コンベンション協会 事務局長 田中光敏 山口大学大学院創成科学研究科 教授 鷗心治 (5名・敬称略)
欠席者	無し
事務局	総合政策部 田中総合政策部長、山田総合政策部次長 スマートシティ推進室 宮原室長 他5名 光井純アンドアソシエーツ大建設計共同体 光井純アンドアソシエーツ建築設計事務所 光井純代表取締役 (リモート出席) 同社西日本岩国オフィス 原一樹所長 株式会社大建設計 広島事務所 沖中資康設計室長 (リモート出席) 株式会社永田音響設計 小野氏、和田氏 (リモート出席) オブザーバー 都市整備部都市計画課 清水課長 都市整備部建築課 山本課長
次第	1 開会 2 会長挨拶 3 議事 (1)多世代交流・健康増進拠点施設基本設計について ・前回専門会議の意見整理(主な発言内容) ・配置ゾーニングの検討 (2)意見交換 4 今後の日程 第3回会議の日程について 5 閉会
内容	次第に基づき以下のとおり進められた。 1 開会 (省略)

2 会長あいさつ

【鶴会長】本日、第2回目の会議ということで、前回、事務局をお願いしていた施設や施設周辺の模型を作成していただき、会場も整備予定地のすぐ近くの防長苑ということで皆さん高揚していらっしゃるのではないかと思います。活発な御意見をいただきたいと思います。

今回は、事務局から、配置ゾーニングとして7案が示され、そのうち特徴的な3案について説明がありました。今回は、前回いただいた御意見を踏まえ、改めて3案に絞った経緯であるとか、その内容を、模型を使いながら説明をしていただきたいと思います。どうしても空間的な議論をしていく中で、平面図だけでは分かりにくいところがあるかと思っています。それと、やはり、今回、市街地の中に施設をつくっていくので、周辺の環境とか周辺の建築物との関係、そういったものを、模型を見ながら考えていっていただきたいと思います。なお、先ほど事務局からも説明がありましたが、今回も、基本設計の受託事業者である光井純アンドアソシエーツ大建設計共同体から光井様、原様、沖中様、永田音響設計の小野様、和田様に御参加をいただいております。そして、山口市の方からも都市計画課清水課長、建築課の山本課長の2名にも御出席をいただいております。事務局であるスマートシティ推進室も含めまして、皆さんで議事を進めてまいりたいので、よろしくお願いいたします。

3 議事

【鶴会長】それでは、最初の議題に入ります。事務局から説明をお願いします。

(1)多世代交流・健康増進拠点施設基本設計について

【事務局】

資料1～3について説明

【鶴会長】非常に分かりやすい説明と模型を使った解説でしたので、皆さんもよく分かったのではないかと思います。それでは、今までの説明で質問等ございましたら、お願いしたいと思いますけれども、いかがでしょうか。

【A委員】前回、大屋根広場の収容人員を1000人程度でとお願いしたところですが、ただいま説明があったC案、E案、F案で一番、収容人員が多い、もしくは、各案でだいたいどのくらいの収容人員になるのかという御説明でも結構ですが、どの案が最大収容人員になるのか教えていただきたいと思います。

【事務局(設計)】現時点の平面図において、大屋根広場の規模については、どの案も大きな違いはありません。先ほども少し御説明をさせていただきましたが、多目的スペース側を開くことによって少し拡張することができるということではありますが、こちらの多

目的スペースにつきましても、現時点では、規模を各案とも同様に設けており、配置につきましてもすべて大屋根広場に面してつくっていますので、そちらについても特に各案とも共通と言えるかと思えます。ただ、一つ言えることが、C案を見ていただくと、こちらについては、大屋根広場に面して、文化体験スペースも整体する形で配置しているので、場合によってはこちら側もオープンに開くことによってさらに広く拡張することができるのではないかと考えております。そういった意味で考えると、より大屋根広場の収容人員を拡大するといった視点で柔軟性を持たせて対応できるのはC案ではないかと考えております。

【B委員】資料の12ページの可動式壁を閉じた場合の音の漏れですが、C、E、Fを比べると、今回は、Fが一番漏れないだろうといった御意見だったと思いますが、今回、Cが一番漏れにくいということでしょうか。順番をつけるとしたら、どうなりますか。

【事務局(設計)】見るポイントによって異なってくると思っておりまして、まず、御説明させていただきました東側のL字型の住戸、アパートについて見させていただきますと、こちらが一番敷地に近い住宅ということで、一番、配慮すべき部分なのかなと思えますが、そちら側からしますと、前回、御意見がありました通り、F案が最も騒音レベルが低いということで、対策ができるのかなと思えます。ただ、前面道路側への音漏れといった点では、CとFを比較すると、Fの方がピンク色の65から70デシベルといったところがより広がっているといった状況なので、CとFにつきましても、見るポイントによって優劣をつけ辛いといったところがあるかと思えます。永田音響さんいかがでしょうか。

【事務局(音響)】確かに、今言われたとおりで、C案、F案を比較して、東側のL字型の住戸に対しては、ややC案の音漏れが大きめだと思われそうです。一方、前面道路に対してはC案が有利ということで、見る場所によってどちらが優位というのはありますが、補足として申し上げますと、敷地前面の道路側に対しては、開口部からの影響が大きく、音を遮るのがやや難しいです。ただ、東側の住戸に対しては、例えば、壁などを上の部分に防音壁として立てるとか、そうしたことで簡易的な対処が可能というのは、ひとつあると思っています。

【鶴会長】東側の住宅を局所的にみているというのは、ここが一番、影響の度合いが大きいという判断でしょうか。

【事務局】はい。

【鶴委員】ちょっとマクロにみると、音の広がりから行くと、Fの方が広がってしまっていますね。Cの方がコンパクトな波形になっているかんじです。どのような見方をするかによって評価の差が出てくると思いますが、やはり東側の集合住宅のあたりをまず、どうに

かしないといけないということでしょうか。

【事務局】全体的な評価になるだろうと思っております。逆に言うと、東側の局所的な住宅に関しては、具体的な配置案の絞り込みが出たあとに、こういった対策を行うかといった視点で考えております。

【鶴会長】分かりました。局所的な影響を減少させる技術的な対応も可能であるという考えですね。

この件について、何か他にコメント、質問ございますか。大きな判断材料の1つだと思います。設計の方から、前回、音の漏れを技術的に、建築的に解決することは十分可能だということがありましたが、追加で補足があればお願いしたいと思いますけれども、いかがでしょうか。

【事務局(設計)】C案の場合は2方向に開口部があります。音圧のエネルギーがどう分散されるかということで、音響からもコメントをしていただければと思いますが、音圧を正面側とそれから北側の方に分散させているという見方ができると考えています。それによってエネルギーが東側の温浴施設の間の中庭の方に一部出ているのが見えると思いますが、これによって南側の正面の方に出てくる音圧エネルギーが実際に下がっているのではないかと思います。F案の場合は、基本的にL字型に全部囲っていますので、音の出口がないですから、南側全体の方に、かなり、集中して音が発散している、という風に見ています。そういった意味でC案の方は、今回の開発する建物の内部といいますか、開発内部で音のエネルギーを分散しながら、処理している部分があるのではないかなということで、周囲に対するエネルギーの分散の度合いについても、今申し上げたような形で、2つに分散していることによって、環境に対する影響が減っているのではないかという風に考えています。配置によってどこまで音がコントロールできるかということも、非常に大事なポイントですが、特に、太鼓の音は衝撃音がすごく、どちらかという音圧レベルとしては、ジェット戦闘機とか、そのくらいのレベルになりますから、中々、その衝撃音を完全に解決するというのが、そうたやすくはないというところはあると思います。実際に太鼓のイベントをよくされているということもございましたので、そういった意味で完全に音を閉じ込めても、どこかでエネルギーが発散してしまいますので、少しずつ小出しにしながら、施設内で音を発散させるという方法も、C案を見るとあるのかなと考えております。

【鶴会長】音圧を少し分散させることで、周囲に与える影響も上手く逃がしているというコメントだったかと思いますが、何か追加で補足がありますか。

【事務局(音響)】シミュレーションのプランによって、音の分布を比較することが大きい目的ではありますが、プランニングによって、どのあたりにどのぐらいの影響があるかと

いうところで、建具があるところから音は漏れるということは当然のことながら言える訳です。なので、対策として、建具を二重にするとか、可動間仕切りを二重にするということで対策はできます。ただ、それによって大きくコストがかかると言いますか、出来上がった後に、運営がしにくいとか、そういったことがあるので、プランニングで対策することが、一番コストをかけずに効率よく施設が出来ると考えております。なので、そういった意味では、先ほど発言があったように、バランスがいいという意味では、C案のように全体に均等に音がいくというのは、バランスよくできているということで、集中的に建具を対策するというようなことで対応できるのではないかと考えています。

【鶴会長】音の専門家の立場から見ても、バランスといった視点でC案ではなかろうかという御意見でした。コストをかけて建具の部分に二重にしたり、技術的に音圧を下げるということは可能だということですが、この段階でコストとか運営のやり方を考えていけば、バランスを考えて、C案が一番効率的ではないか、といった見解のようです。音については、現時点でこのような実験結果ということで、バランスといった点ではC案ということで御理解をいただきたいと思います。

その他、皆さんの方から何かありますか。

【C委員】2点、質問をさせていただきます。市の方への質問になると思いますが、資料の2の優先度レベル8つについて、まず、地域交流センターとの連携、これが、レベル1に入っている理由、譲れない何かがあると思いますが、その理由を教えてくださいのと、芝生広場は活用イメージ、どんな風に活用されるイメージをお持ちなのかというのを教えてください。

【事務局】まず、最初の地域交流センターとの連携という点でございます。湯田地域は、温泉というのが非常に地域資源の柱であるとともに、この地域交流センター周辺を地域活動の拠点化していくという方向性が、まず、ございます。そうした意味でも、この多世代交流・健康増進拠点施設の、湯田地域の皆様の御利用というものが、非常に想定されるなかで、地域交流センターの活用がさらにしみだしてくる、拡大していく、あるいは、地域交流センターの活動と連携していくところを重視している施設でありますことから、やはりここはレベル1ということころで、優先度の高い項目としております。そして、芝生広場については、基本的には、大屋根広場とか、施設との一体的な活用がしやすいということも重視しながら、具体的な活動というのは、地域活動ですとか、観光の活動、色々なことが想定されますが、基本的には、一体的な活用がしやすいようなかたちで配置ということころで、現時点では検討しているところですよ。

【C委員】そうしますと、地域交流センターとの連携は、結構、重要だという風に認識されているということですね。

【事務局】はい。

【鶴会長】事務局から地域交流センターの連携の根拠と言いますか、重要性について、きちんとした説明だったと思いますが、連携とか、拠点化っていうのは、ふわっとした非常に使いやすい言葉ですが、実際に拠点化や、連携は、果たしてなんなのか、ということをもう少し詰めていった方がいいと思います。湯田地域の地域住民の方の拠点として、今、どういったことがアクティビティとして行われていて、それを今回の施設でどういう風に拡大させるのか、とか、どういう風にサステナブルにしていくのか、とか、どういう風にいろんな人を巻き込んでいくのか、とか、そういったところ、ソフトな考え方をもう少し詰めていっていただいて、空間に反映させられるようにしていただきたいと思います。よろしいでしょうか。補足させていただきました。その他、皆さんの方からいかがでしょうか。

【A委員】前回、脱炭素社会に向けた取組ということでお話をさせていただきましたが、湯田温泉の魅力向上と言いますか、そういったところが非常にこれからは大事になると思っています。この前、文化交流課の職員と話をしておりましたら、明治維新のときもやはり、湯田温泉のエネルギーをもらって、志士たちは戦ったというような、そういったこともありますので、湯田温泉のこのエネルギーというのは大変、大切なものではないかと思っています。前回は温泉の熱を利用した床暖房、そういったものをお願いしましたが、温泉で最近は、自家発電が可能になっております。自家発電の金額は相当なものですので、リースをしたり、コスト面でも、どちらかという、プラスと言いますか、有利に働くような、使わないときは売電も可能ですし、そういったことが可能ではないかと思いますが、その辺の検討の状況はいかがでしょうか。

【事務局】今御指摘がありましたように、2050の脱炭素に向けて、30年後も、サステナビリティ溢れる施設にするためには、そういった視点というのは非常に重要だと思っております。まず、温泉の利用に関しましては、現在、配給組合さんとも色々意見交換をさせていただく中で、温泉の利用に関しても、前向きな意見交換がされているような状況です。そうした意味では、発電というかたちになるのか、あるいは、温泉熱利用というかたちになるのかというのは、今後の検討が必要かと思いますが、利用するという形で現時点では意見交換させていただいております。その他、再生可能エネルギーの利用がどういったかたちで可能になるかということも含めて、今後、検討していきたいと思っております。

【鶴会長】SDGsという目標がありますので、今の時代、技術的に活用できるものは活用していただいて、設計をやっていただきたいと思いますので、御検討よろしく願いいたします。

一時間経ちましたので、一回休憩を入れて、換気をさせていただきますと思います。

それでは、11時10分から再開します。

休憩

(2)意見交換

【鶴会長】それでは、時間になりましたので、再開します。

次の議題ですけれども、意見交換ということで、事務局からは、模型を少し囲んで、意見交換をしたいということでございますけれども、そういうやり方でよろしいでしょうか。

【事務局】はい、お願いします。

【鶴委員】リモートの委員は、こちらで映像を配信しますので、適宜コメントをいただきたいと思います。そちらから積極的に発言していただいて結構ですけれども、こちらがバタつくこともあるかと思しますので、どうぞよろしくお願いたします。

それでは、委員の皆さん、模型の周辺に集まっていますでしょうか。

事務局から補足の説明がありますか。

【A委員】先ほど、音の分散のお話で、1方向だけに音がいくのではなくて、ある程度、周辺住民に影響がない範囲での分散はやむを得ないのかなと。1方向だけというのは非常に特定の人だけ迷惑がかかるとか、そういった視点でいくと、収容人員もC案が一番拡大できるといった御説明がありましたので、この案に決めるということではないですが、優先順位の高いものかなと思しました。

【鶴会長】先ほど、大屋根広場の収容人員1,000人という数が出て、1,000人の方がここに集まって、例えば、今回のシミュレーションは太鼓ですが、1,000人の人が集まって色々なイベントをしたときの音と同等と考えていいでしょうか。1,000人くらいを集めてイベントを行い、例えば、音楽を鳴らすかもしれませんし、そういったときのシミュレーションと今回の太鼓を鳴らすシミュレーションはだいたい同等と考えていいものですか。

【事務局(音響)】太鼓を前提にして数値を決めているだけなので、太鼓の周波数特性等を考慮しているわけではなくて、115という数字を前提にやっています。だいたい、ホールとかでも、一番発生音が大きいのは和太鼓なんです。ですので、和太鼓で評価していれば、だいたい対応できると考えております。今言われたような1,000人規模の集まりがあっても、それほどのレベルが出ないかと思しますので、この今の発生音でシミュレーションしてあれば、それ以下であると考えられると思います。ロックバンドみたいなものもありますけれども、そういったものも、だいたい115で想定していれば、対応できますが、ある程度、発生音の軽減というのも必要になってくるのではないかと。和太鼓

は操作できませんけど、バンド系は制限が出来ますので、そういったことでも対応できますので、今、最大の発生音を想定してシュミレーションしているということです。

【鶴会長】非常によく分かりました。音の話に関連して他に御意見ありますか。

【A委員】住民がおられるアパートが、東側にあるので、温浴施設をここに配置するというので、ある程度、大屋根広場からここに音がこもっているし、防音効果面で言えば、温浴施設はあそこに配置するっていうのは非常に有効かなと思いました。

【鶴会長】事務局に確認ですが、音が出る施設で、周囲との協議といたしますか、当然、色々なステークホルダーと話をしていかないと、まとまっていけないと思いますが、その辺の進捗といたしますか、御理解の程はどうでしょうかね。

【事務局】現在、地域の方とは話を始めておまして、具体的な配置案が絞り込めた段階で、さらに詳しい検討なり、一緒に作りあげていくようなかたちをとっていきたいという話を伺っております。

【鶴会長】今日、配置が3案出ましたが、3案については、今なんとなくC案が有利な流れになっていますが、コメントございますか。

【B委員】室外機等について、別棟ということで、CとEは多少コストが上がるとは思いますけど、大したコスト増にはならないでしょうか。大きく変わるのかどうか、聞いておきたいとします。

【事務局(設計)】コストについては、どのような方法で防音、遮音対策を行うかによってまた色々差が出てくると思いますが、一般的な建具とか、それ以外の遮音方法、これらを考えますと、他よりはどうしても割高になってしまうとは思いますが、コストのことを考えると、防音壁というか防音建具、これをいかに短くするかというところは、計画ではポイントになってくるかなと思います。

【事務局】空調の御質問もありました。C案の場合だと、温浴施設が分棟になってしまうということもあって、その辺でコスト増になるのではないかとということで、どれぐらい、他と変わりますでしょうか。

【事務局(設計)】空調方式にもよると思いますが、おそらく今回はある程度、分散したかたちで空調計画をしたいと思います。一まとまりの建物の場合でも、室外機とかは、小さいものを組み合わせてやっていくと思いますので、建物が分散になったとしても、そんなに大きなコストアップにはならないだろうと考えています。分散になるということは、室

外機から室内の空調機までの配管がでます。それが若干、分棟の方が長いとは思いますが、そこは大きなコスト差にならないと思いますので、空調のコストのことが、C案かE案かを定める大きな要素にはならないかなと思います。

【鷗会長】分棟であっても一体的な建築であっても、設備の面からは、大差ないという考え方をしているのではないかとということですね。

皆さん、他にございますか。

私が事前の打ち合わせでも気になっていることが1点あって、多目的ホールは、さきほどの拠点とか連携という言葉と一緒に、非常に便利な言葉です。今回の施設は、温浴施設は確実な明確な機能を持ったスペースで、それと、文化体験もある程度明確ですけれども、多目的スペースの面積が結構あって、そこが、コンテンツがあまりはっきりしていないですね。こういった公共施設をつくっていつも問題になるのが、365日のうち何日稼働しているのか、これだけの金をかけてということが、よく問題になったり、押揃えされたりします。やはり、コンテンツなり、機能なり、連携ということをもう少し考えないといけないですね。今回、幸いなことに北側に交流センターがあるので、ここで行われているアクティビティとか、それから近くに小学校があるとか、そういった地域の核になるような、人が実際集まっているような施設、教育施設とか交流施設があるので、そういったことと併せて、この施設がこういった風に使われていくのかとか、どういう風な機能を入れれば地域の人たちに喜ばれるのかとか、温浴施設との連携がうまくいくのかとか、そういったことをもう少し議論していかないと、面積がはっきりしていないと感じていますが、事務局は何かお考えございますか。

【事務局】大屋根広場、まさに広場空間にふさわしい市民の利用をどうまわしていただくかというあたりだろうと思います。観光、イベント系はある程度想定ができやすく、そして議論も進んできたと思っておりますが、まさに市民利用、地域利用に関して、どうした利用が想定されるのか、あるいは、想定しているのかというあたりを、次回第3回に向けて、事務局の方でもしっかり詰めていきたいと思っておりますので、また、御議論いただければと思います。

【鷗会長】先ほど、委員からも御指摘があったように、北側の施設との重要性をなんとなく事務局は見ているようですので、そういったことも含めて、議論していかないと、この専門会議でそこも説明していただいて、それが建築にどのように反映されるのかということもしっかり議論していった上でまとめていきたいと思っておりますので、是非、よろしくお願い致します。

皆さんの方からコメントはございませんか。

【事務局(設計)】この場所のプログラムといいますか、使われ方のことについての話という理解でよろしいでしょうか。

【鷗会長】はい、よろしくお願いします。

【事務局(設計)】まずは、話は逸れてしまいますが、このC案の場合は、真ん中に多目的な大屋根広場があって、そこは比較的ボリュームのある場所になります。四角いかたちをしています。その周囲に小型の建物を配置しているという大きな構成になっています。それによって周囲の住宅地域に対するスケール感の配慮が行われているという風に考えています。市の方からも言われていますが、北側の交流センターとの連携もすごく大事で、そちらの方からも人がやってきて、ここの大屋根広場に来るといふこともあるということもございますので、南北軸と申しますか、南北軸の軸線とそれから施設内の縦横軸のつながりと言いますか、そういったものが全部一緒になったかたちになっているこの大屋根広場の存在ということが一つは非常に大事だと考えております。それから、小郡の新しいコンベンション施設が出来ておりますので、MICEのような形で使われると思いますが、我々の想定としては、そのMICE施設でのイベントのサブイベントスペースと言いますか、こちらの湯田の方でサブイベントを開催するとか、多目的室等もございまして、いろんなサブのセミナーをここで開催するんじゃないかとか、大屋根広場で色んな展示を含めたサブイベントを開催できるんじゃないかとか、我々、設計の人間としては想定をしています。それと同時に、当初、プロポーザルのときにも申し上げましたが、スリッパ卓球とか、様々なイベントもあるということもございましたので、出来るだけ、子どものスポーツとか、それからお母さんのスポーツとかそういったことも含めて開催できるような、そういった場所なんじゃないかなと思っています。スポーツイベントをしたり、かけっこをしたり、そういったことも含めて、いろんな日常のものを、それから新山口のコンベンション施設と連携した、サブコンベンション施設としての使い方、またそういったことを我々としてはイメージして、こういったかたちに作りあげていくというところでございます。お答えになってますかね。

【鷗会長】新山口駅のサブコンベンションというのは非常に重要な位置づけだと思います。湯田温泉地区の観光としての使い方、これも非常に明確な目的だと思いますが、私が気になっているのは、それ以外です。今回の目的、コンセプトの基本構想の中で、かなり市民を意識した、日常的な位置づけを、3本柱のうち2本柱くらいあったと思いますが、そういった日常の使われ方みたいなのところをもう少し機能を明確にしていかなければいけない。市民が日常的に訪れ、とか、市民の愛着とか、観光はもうかなり明確なビジョンが見えますが、市民の日常といったところを考えたときに、こういった空間の使い方がルーチンでやられていくのかということももう少しビジョンを明確にした方がいいかなというふうに考えておまして、その辺の、内容のヒアリングとか協議とかを次回までに、事務局の方が提供していただければそれでいいので、またそれを含めて、建築をどうしていくのかという議論をさせていただければと思いますので、よろしくお願いします。

【C委員】しつこいようですが、芝生広場の活用について、今、C、E、Fともに〇がついていますが、どう使うかで、〇が変わってくる気がしていて、C案は結構、面積的にも小さいですし、分かれていますので、なんとなく緑のスペースがあるな、といったくらいに見えます。日常的に、イベントがされるとか、例えば、ベンチとテーブルが置いてあって、飲食の活動が地元の方にもされているような、もしくは観光客にそのような使われ方をしているのであれば、EやFの方が使い勝手がいいと思っていて、ただそういった使い方をされないのであれば、殺風景なかんじになってしまって、かっこ悪くなるので、使い方が重要だと思っています。その辺のイメージがまだ湧いてないので、もし市の方で活用のイメージがあれば、教えていただきたいと思います。

【事務局】今現在は、施設の配置案として、大屋根広場等の近接性、連携性ということで、お示ししております。使い方という点につきましては、今ヒアリングを進めております件ですとか、今後ヒアリングをする件を、次回第3回において、お示しをさせていただきますので、また、御意見をいただければと思います。

【鶴会長】C案は、エントランス側の芝生広場が切れているように見えますが、エントランスの位置を少しずらすだけでも、大屋根広場と芝生広場の連続性で、大きいスペースが確保できるように思います。なので、その辺はアレンジの範囲内かなと思っています。ただ、さっきも言ったように、広場と芝生広場の使い方は、かなりビジョンを考えないと、これだけの面積なので、本当にここが寒々しい空間になっただけいな、と思っています。今、国土交通省も含めて、公共空間をどのように使い倒すとか、広場をどのように使っていくかというエリアマネジメントの考え方で、丸の内でも道路が芝生広場になっていますので、芝生の使い方、広場の使い方に関して、事例がたくさん出てきているので、そういったことも研究して、ここに生かしたらどうかと思います。是非その辺はまた事務局で事例の準備をしておいてほしいと思います。よろしくをお願いします。

【事務局(設計)】芝生広場に関して言いますと、近くにYCAMのかなり大きな芝生広場がありますので、そちらとの差別化といったところも考える必要があると思っています。こちらの敷地に関して言いますと、YCAMのような大きな芝生広場を設けるのとは別に、例えば、少し、このまちのスケールに合わせた、ポケットパーク的なかんじで作って、例えば、前回の資料でお出した、少し地形にマウンドを設けて、そこに寝そべったりができるスペースだったりとか、少し小さなところを作り込んでいくというような活用の仕方もあるのかなと思っていますので、そういったところも含めて、どちらがいいのかといったところを今後は検討していきたいと思っています。

【鶴会長】それでは、そのほか、皆さん御意見がございますか。次回、準備してほしい資料とかいう話もしあれば、言っていただきたいと思います。

	<p>【事務局(設計)】次回までに、今、会長が指摘されましたように、使い方については色んなイメージの分かる写真とか図面等を用意したいと思います。それから、この地域特性もごございますので、この地域でどんなことが出来るのか、例えば、朝市とか、そういったことが出来るような能動的な状況になっているのかとか、そういったことを含めまして、市の方と少し調査をさせていただいて、具体的にここでこの地域ならではのイベントといますか、広場、それから、大屋根広場、それから、芝生の使い方とどんなことがあるのかということを考えて、イメージ写真と一緒に持ちたいと思います。</p> <p>【鶴会長】是非、よろしくお願いします。</p> <p>それでは、一旦席にお戻りください。</p> <p>本日のまとめですが、音に関しては、地域との協議の上で、今後とも御理解をいただきながら、進めていっていただきたいと思っています。それと配置案も3案を継続的に比較しながら、次回また、色んな特徴を含めて、協議を進めていきたいと思っています。それと先ほど、指摘もあったように、空間の使い方の事例等を事務局の方で少し協議の上、資料を提示していただけたらと思います。一番気になります日常の使い方ということも、情報を収集していただきながら、次回資料を提示していただき、この専門会議で建築の機能、そういったところについて少し焦点を当てて、議論をしていきたいと思っています。</p> <p>それでは、次第の4番目、今後の日程について、事務局説明からお願いできますでしょうか。</p> <p>【事務局】次回、第3回の会議は、7月を予定しております。7月での調整が難しい場合には、8月の第1週まで含めて調整させていただきまして、開催をいたしたいと考えております。決まりましたら、改めて御連絡をいたしますので、よろしくお願いいたします。</p> <p>以上です。</p> <p>【鶴会長】これで閉会としたいと思いますけれども、何か皆さんの方から全体を通してございますか。</p> <p>【事務局】皆さん、お忙しい中、本日は御出席いただきましてありがとうございます。以上をもちまして、第2回多世代交流・健康増進拠点施設整備専門会議を終了させていただきます。皆さん、大変お疲れ様でした。ありがとうございます。</p>
<p>会議資料</p>	<p>次第 資料1 多世代交流・健康増進拠点施設基本設計について 資料2・3 配置ゾーニングの検討(資料3は委員限り) 資料4 委員名簿 資料5 配席図</p>

	資料6 「多世代交流・健康増進拠点施設整備専門会議設置要綱」
--	--------------------------------